

平成30年度 公共事業事後評価(農業農村整備事業)

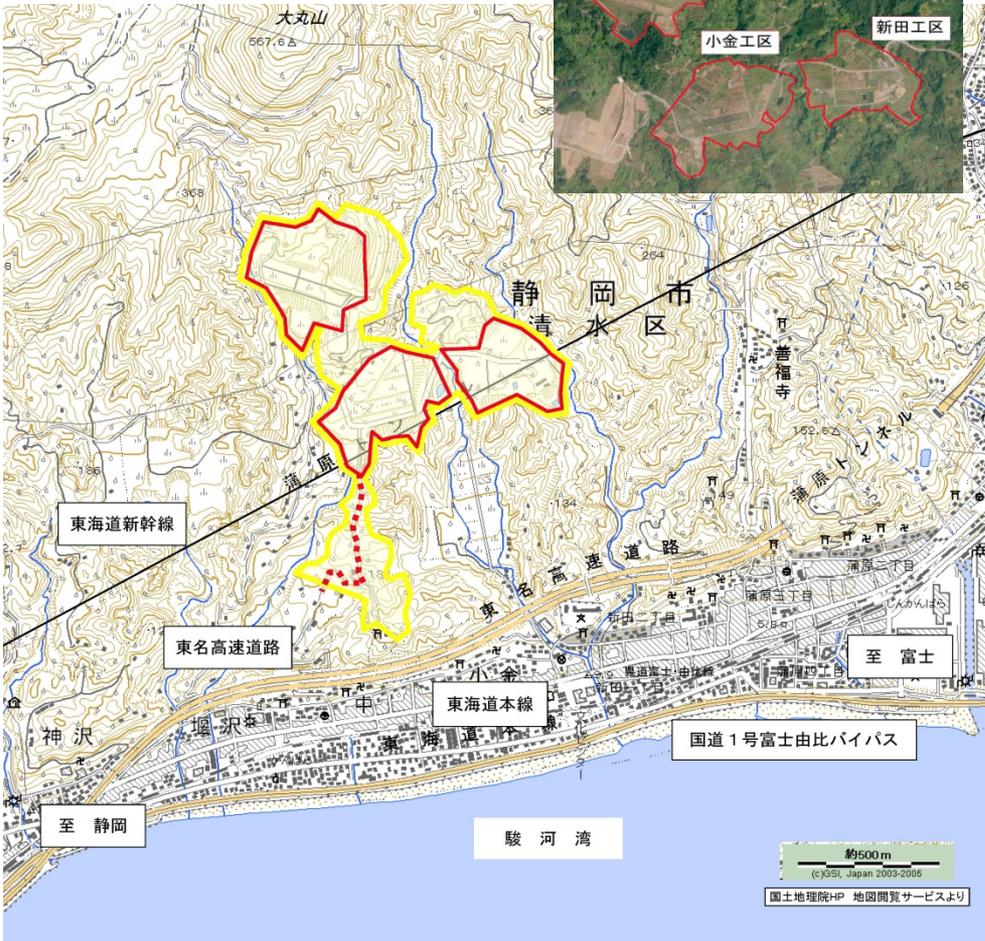
畑地帯総合整備事業
(担い手育成型)

蒲原東地区

経済産業部 農地局 農地整備課

1 位置図／事業概要／事業の目的・必要性

位置図



事業概要

施工箇所：静岡市清水区蒲原
受益面積：44ha（受益者201名）
工期：平成7年度～平成24年度
事業費：1,974百万円
事業内容：区画整理 22ha
農道整備(W=4.5m) 230m

事業の目的・必要性

- 生産性の向上と農地の集積・集約化の促進
 - ・急傾斜樹園地が大区画平坦化
 - ・農道整備により輸送労力が減少
 - ・次世代を担う農家の育成

2 事業の効果等①

食料安定供給確保効果

(作物生産・品質向上・営農経費節減・
維持管理費節減・走行経費節減)

▶ 総便益:45.91億円

農村振興効果

(地籍確定、非農用地創設)

▶ 総便益: 0.17億円

総費用総便益比

B/C=1.19

総便益(B) 46.08億円
総費用(C) 38.42億円

事業前



事業前イメージ



急傾斜樹園地のため営農は重労働

事業後



大区画平坦化され営農が省力化

2 事業の効果等②

作物生産効果

営農経費節減効果

平坦大区画化による作物生産量の増加・労働の省力化

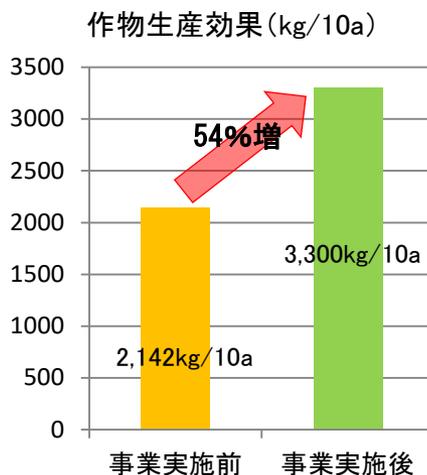


農道によりトラック輸送が可能に

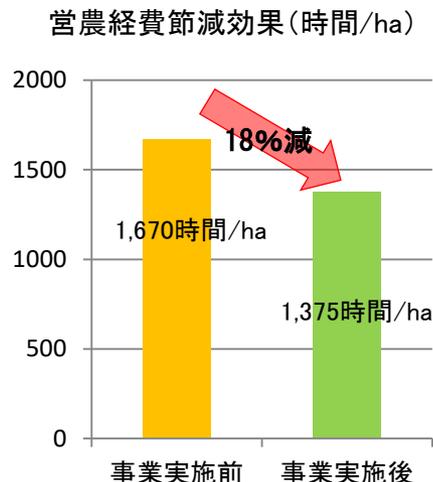


区画整理による平坦大区画化の効果

みかんの収量が増加



みかんの農作業時間が軽減



農道整備による効果

輸送費用が大幅に減少



更に、みかんから地域で需要の高い露地野菜等の導入も進み始めた。

農業粗収益が地区全体で年間約79百万円増加。

3 事業実施による環境の変化①

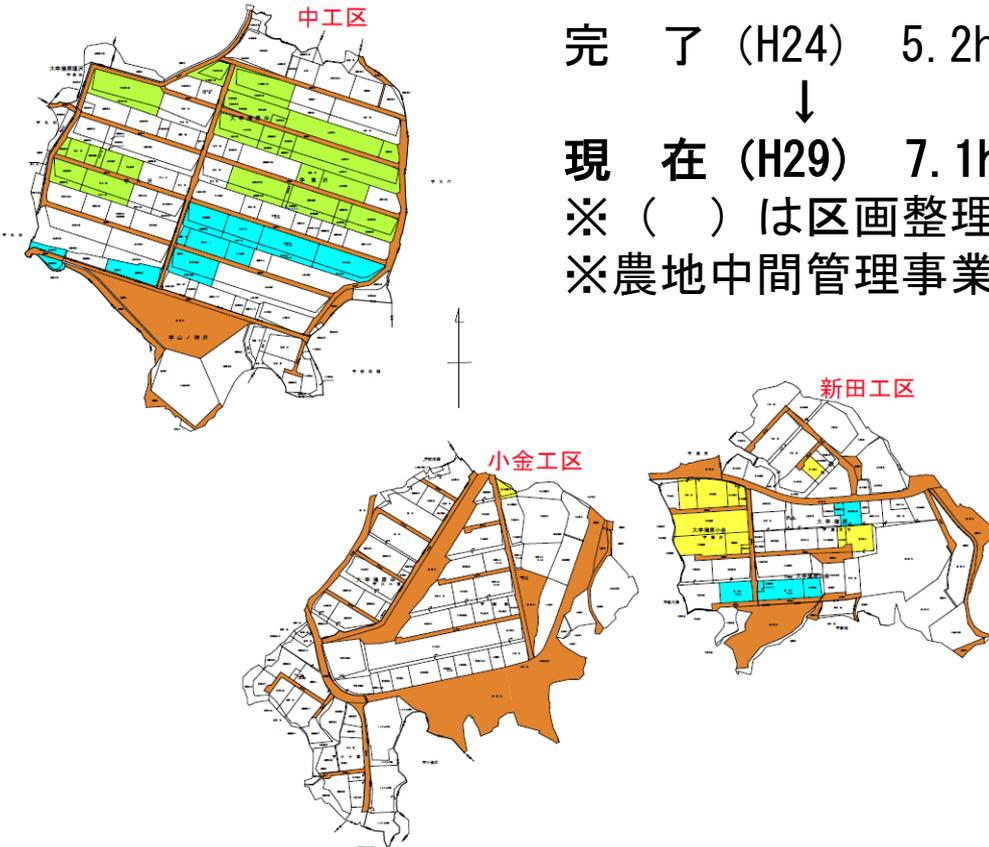
生産力の強化

区画整理地(22ha)における担い手農家への農地利用集積状況 (蒲原東地区)

	集積面積	担い手 (耕作者)
事業前 (H7)	0ha (0%)	0名 (166名)
完了 (H24)	5.2ha (23.4%)	3名 (130名)
↓		
現在 (H29)	7.1ha (32.3%)	3名 (99名)

※ () は区画整理農地22haに占める集積率

※農地中間管理事業により農地利用集積を実施



凡例	
	農地所有適格法人(エスファーム)
	A氏
	B氏
	道路及び法面等

3 事業実施による環境の変化②

農地所有適格法人の参入



- ・多品目野菜の生産
- ・生産野菜や加工品の直売

ふじのくに美農里プロジェクト



- ・農道や排水路の日常管理
- ・景観形成のための植栽

創設非農用地と農道網



- ・周辺道路を活用した農道網
- ・大型車による運搬が可能

- ・新規参入した「エスファーム」の自社生産野菜の直売や加工販売等新たな取り組み
- ・ふじのくに美農里プロジェクトにより非農家も含めた地域ぐるみの活動に取り組む
- ・創設非農用地により、地元負担を軽減し、農道網の形成に取り組む

4 社会経済情勢等の変化

地域社会の動向

事業実施中の平成24年11月「JAするが路」が「JAしみず」と合併したことにより営農指導の強化、販路の拡大が図れた。その指導を受けてミカン栽培、露地野菜の栽培に取り組んでいる。



営農指導状況



地場農産物を活用した出前講座
・ 基盤整備農地で栽培された
高品質農作物の情報発信



地域経済の動向



観光農園による都市・農村交流
活動が期待



『清水ミカン』
ブランドの向上



アンテナショップきらり

- ・ 「静岡しみず産」の農芸品を販売し、ブランド化を推進
- ・ 地域農産物がブランド化することにより営農意欲も向上
- ・ 意欲向上により農作物の安定供給体制が確保される

5 対応方針（案）

評価結果

区画整理、農道の整備により

- ・ 営農労力の軽減、農作物の増収、品質の向上が図られ、みかんの他、露地野菜等も導入され生産地として強化



事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。

今後の課題等

- ・ 農作物の品質の更なる向上のため、防風ネットや畑地かんがい施設の整備などの施設の高度化が必要
- ・ 本地区は風光明媚な条件を生かし農村環境の向上や交流促進につながる地域イベントの開催の検討が必要

同種事業への反映等

- ・ 樹園地の平坦化により意欲ある担い手農家への農地集積が進み荒廃農地の発生が抑制
- ・ 換地による公共事業等の用地を創設する手法は、農業振興と秩序ある土地利用の両方が可能、今後、同種事業においても地域状況を踏まえつつ実施